令和２年度

学校法人　笹田学園　　事業報告書

Ⅰ．法人の概要

本学園は昭和３年の浜松（服装）研究所設立より受け継がれてきた「技術の原点は心である」との建学の精神を継承し、「和する心」「敬う心」「質実な心」「美を求める心」の４つの心を校訓に掲げています。

昭和 3 年 4 月　創立者 笹田 栄により浜松市菅原町に設立
昭和 20 年 4 月　浜松市東伊場に移転する。
昭和 22 年　浜松で初めてファッションショーを開催
昭和 23 年 4 月　静岡県公認校となる。東京文化服装学院連鎖校となる
昭和 30 年 4 月　創立者 笹田 栄逝去。笹田陽子学校長就任
昭和 41 年 6 月　学校法人化。学校法人笹田学園となる。笹田陽子理事長就任
昭和 41 年 11 月 本館（現 4 号館）校舎完成
昭和 47 年 12 月 ろまん館校舎完成
昭和 50 年 7 月　創立３０周年記念式典挙行
昭和 51 年 3 月　専修学校法成立にともない、浜松初の専門学校となる(学校教育法第 82 条の 8)
校名を「笹田学園ファッション専門学校」に変更する
昭和 55 年 11 月 創立３５周年記念式典挙行
記念行事として「第一回 笹田グランプリ」開催
昭和 56 年 4 月　文部省指定向陽台高等学校技能連携校となる
昭和 58 年 2 月 「第二回 笹田グランプリ」(のちのデザインコンペティション)開催
昭和 60 年 10 月 文部省より大学入学資格付与校として指定を受ける
昭和 60 年 11 月 創立４０周年記念式典挙行。記念事業として未来館(現２号館)完成
平成元年 4 月　連携校向陽台高等学校が単位制高校として認可を受ける
平成 2 年 8 月　デザイン館（現１号館）完成
平成 5 年 6 月　運動場用地取得
平成 6 年 2 月　アート館（現３号館）完成
平成 6 年 4 月　男女共学となる。コンピューター分野学科を新設する
平成 7 年 1 月　専門誌称号付与校となる
平成 7 年 5 月　創立５０周年事業として専門課程校舎（現５号館）完成
平成 7 年 11 月 創立５０周年記念式典挙行
平成 9 年 2 月　「第１５回 笹田デザインコンペティション」開催
平成 10 年 4 月　校名を「デザインテクノロジー専門学校」と変更し、建築分野学科を新設
平成 10 年 9 月　建築実習棟（６号館）完成
平成 12 年 4 月　笹田栄一学校長就任
平成 14 年 2 月　「第２０回 笹田デザインコンペティション」開催
平成 18 年 2 月　創立６０周年記念式典挙行
平成 19 年 2 月　「第２５回 笹田デザインコンペティション」開催
平成 24 年 1 月　「第３０回 笹田デザインコンペティション記念行事」開催
令和 3 年 2 月　「第３９回 笹田デザインコンペティション」開催

学校法人　笹田学園　大臣認可年月日　昭和 41 年 6 月 21 日
〒432-8036　静岡県浜松市東伊場 1 丁目 1 番 8 号

設置する学校・学科等

デザインテクノロジー専門学校

専門課程	ファッションビジネス学科	平成 10 年度開設
	デジタルメディア学科	平成 10 年度開設
	建築学科	平成 10 年度開設
高等課程	ファッション科	昭和 61 年度開設
	生活アート科	平成 6 年度開設
	建築デザイン科	平成 10 年度開設

設置する学校・学科の入学定員、学生数（令和元年５月１日現在）

設置する課程	設置する学科	入学定員	現員
専門課程	ファッションビジネス学科	１０名	８名
	デジタルメディア学科	２０名	３６名
	建築学科	２０名	４１名
	プロ専攻科	１０名	５名
高等課程	ファッション科	４０名	６３名
	生活アート科	７０名	１７２名
	建築デザイン科	３０名	５３名

役員の概要（令和元年末現在）

理事長	笹田　栄一
理事	笹田　富子
理事	鈴木　祐二
理事	伊藤　勝人
理事	塩谷　泉
理事	瀧口　基雄
理事	内田　光
理事	橋本　光史
理事	高山　直久
監事	板倉　広亨
監事	千葉　信二

評議員	笹田　富子
評議員	山中　久美子
評議員	松本　敏明
評議員	浅井　恒志
評議員	十束　節郎
評議員	笹田　陽二郎
評議員	中本　悦司
評議員	水谷　秀雄
評議員	笹田　恵子
評議員	鈴木　祐二
評議員	村松　正之
評議員	山本　洋子
評議員	橋本　光史
評議員	豊田　茂
評議員	山内　清司
評議員	兼森　淳一
評議員	阪本　一史
評議員	野々山　訓弘
評議員	八代　拓人

教職員の概要

設置する課程	専任教員	兼務教員
専門課程	４名	１１名
高等課程	６名	２１名

Ⅱ．事業の概要

１．中長期計画

我が国の高等教育機関・後期中等教育機関を取り巻く環境において、18 歳人口が 120 万人前後に減少し、若干の増減はあるが今後しばらくはこの状態が続いていく。これに加え世界規模の金融破綻からの影響が長引くなど、日本の経済基盤や産業構造に大きな影響と変化を与えており、社会的価値観も変わってきている。教育機関においても戦後からの出生数に伴う量的拡大といった教育制度が行き詰まってくるなど、今が教育改革のターニングポイントとなっており、今後の５年間、１０年間で学園の教育目的の維持・発展に向けてどのように施策を行っていくかが、重要な課題となる。その展望として中・長期計画を策定しつつ、笹田学園の教育基盤、財政基盤の強化を図る。

本学園は社会に通用する人材を育成することを指針としているが、近年の社会変化に対し、従来の教育内容をどのように見直し、それが新時代を先見すべきカリキュラムの編成として、また産業界との連携強化の中で、変革しつつある人材要求に対応できる教育機関とならなければならない。また、それに応じる事のできる教職員の育成も大きな課題となる。

なお、今年度より職業実践専門課程への推薦を受けるための準備も行っていく。

２．令和２年度の事業報告

1）学生募集活動

① 当年度の概要

当学校法人を取り巻く環境は、少子化や厳しい経済状況の中にあって、生徒募集活動に大きな影響を受けており、教務・生徒指導・進路の三部門をはじめ学園あげての取り組みに努めた。募集体制の改善が急務である。

②第１０回夢デザインコンテスト

２３年度、コンペ 30 回記念事業として始めた小・中学生を対象としたコンテストを今年度も開催した。自らの好きなデザイン画を製作する事により、小・中学生

の制作意欲の向上目的としている本事業に応募作品は中学生部門 1218 点、小学生部門 1,882 点もの作品が寄せられ、受賞作品は 10 月の披露式で表彰をし、新聞掲載もされた。

２）学生の動向

本校の生徒・学生の動向として学力水準が低く、基礎的な学力、特に国語力・数学力に劣るところのある生徒や、日常生活を自立的に統御し、対人関係を律することが不得手な学生などが見られる傾向にある。これらの学生に対しても個別指導や補習教育などの適切な対応策を講じる必要が生じたため、具体的な対策を工夫しつ今日に至っている。本学の入学生の学力や人間的資質は多様で多元的であり、それぞれの学生の傾向や水準に合った教育指導の工夫が求められるところである。

３）学校評価等の公開

学校自己評価や財務状況をホームページなどに公開する事で、より開かれた学校を目指す。今後、第三者評価を行えるよう、より充実した学校自己評価の点検項目などを増やしていく。

４）新型コロナウイルス感染症の影響

今年度始めから新型コロナウイルス感染症対策により、休校や分散登校等、例年とは大きく学校生活が変化した。校内の消毒や生徒の検温、三密の回避等の対策をし、生徒の安全を優先させたが、修学旅行などの学校行事は中止となり教育活動の機会の損失は大きかった。今後はオンライン授業の活用や状況を鑑みて学校行事の実施などを図り、コロナ禍でも教育成果の向上を検討していく。